『いつでも・どこでも・だれでも』 光陽ちょぼら隊！

札幌市立光陽中学校　教諭　森（もり）　紗彩（さあや）

Ⅰ　経緯

光陽中学校では、平成 15 年に生徒会憲章ともいえる「生徒会自治活動宣言」が作られたことをきっかけに、生徒会の活動として、『安春川清掃ボランティア』や『除雪ボランティア』が行われてきた。しかし、活動が行事化されるにつれ、発足時の自主性が少しずつ薄れ、さらに「活動日に都合がつかなければ参加できない。」という問題点も挙げられた。その現状を打破すべく、昨年度まで本校の教員であった堀大輔先生が、有志によるボランティア団体を立ち上げようと考えた。『①社会福祉活動の実践を通じて、他者に対する思いやりや助け合いの心を育てる。』『②地域とのつながりに重点を置いた活動を通じて、地域社会に目を向けることができる心を育てる。』という目的の下、活動を通して学年全体、学校全体を活性化していきたいというねらいがあった。

Ⅱ　実現に向けて

ボランティア団体の名前は、『光陽ちょぼら隊』。名前の理由は、ちょっとしたボランティアを略して“ちょぼら”と名付け、ちょぼらしたい生徒の集まり、『ちょぼら隊』ということで決定した。平成 24 年 6 月に結成され、現在では、2・3 年生を中心に 76 名の生徒で活動している。有志のボランティア団体ではあるが、それでもこれだけの生徒が集まり、自主的に人のために活動したい、と思ってくれる生徒がいることは、とてもうれしく感じる。

Ⅲ　活動内容

	活動内容
4 月	隊員の募集
5 月	校区内公園清掃（4 公園） 校内清掃（雨天時）
6 月	校区内公園清掃（3 公園） 第 27 回ひだまりサロン参加 新・新まつり参加
7 月	介護老人保健施設サンビオーズ新琴似訪問（2 日間）
8 月	GO!GO!きたっこ夏まつり参加 新琴似保育園訪問（3 日間） 第 5 回夏の子どものフェスティバル 校区内公園清掃（6 公園＋安春川）
12 月	第 28 回ひだまりサロン参加
1 月	雪かきボランティア「レッツ！雪かき汗かきチャレンジ！」
2 月	異世代交流会参加
3 月	校区内公園清掃　※予定

Ⅳ　具体的な実践

1　ふれあい活動への参加

【ひだまりサロン】　【新・新まつり】　【GO！GO！きたっこ夏まつり】　【夏の子どものフェスティバル】　【新琴似保育園訪問】

どの活動も小さい子どもたちと遊び、ふれあうことを目的とするものであり、地域の方々が主催するイベントに、学生ボランティアとして参加し、『光陽ちょぼら隊』を多くの人に知ってもらう良い機会にもなった。

特に『ひだまりサロン』は、光陽ちょぼら隊の結成時から欠かさず参加している、ごみ拾い以外の活動を行う原点となった活動である。最後にステージで見せるダンスは、毎年少しずつアレンジしていき、会場にいる子どもたちを楽しませられるよう頑張って準備をしている。昼休みや放課後に、汗をかきながら練習する生徒たちは、本当に

純粋な心をもって取り組んでおり、手前味噌ながら素敵な子たちであると感じる。イベントに参加させてもらうことによって、自分の生まれ育った地域の様々な行事を知ることができたことは、大きな収穫となった。

２　支援活動への参加

【介護老人保健施設サンビオーズ新琴似訪問】

介護老人保健施設サンビオーズ新琴似では、入所者の方々やデイケアの方々と交流を深めた。お話やリハビリのお手伝い、オセロゲームなどで生徒も一緒に楽しみ、中学生の若いエネルギーを贈ることができたと感じる。生徒たちは、職員の方々が動く様子を見て真似して動いたり、時には失敗したりと、考えて動くことの大切さを学んだ。

３　奉仕活動への参加

【校区内公園清掃】　【校内清掃※雨天時】

自分たちが暮らす地域をキレイにしたいという生徒の思いからスタートした活動であり、この校区内公園清掃がちょぼら隊の原点であることは言うまでもない。校区内には 34 の公園があり、数回に分けて清掃した。もちろん公園に移動するまでの道路のごみも拾っていったが、公園よりもむしろ道路の方が、ごみで汚れていることに驚いた。特に多いのは、たばこの吸い殻やビールの空き缶である。大人のモラルが問われるこの状況に、ごみ拾いをする生徒たちも複雑な気持ちで取り組んでいる。大人が落としたごみを中学生の子どもたちが拾う世の中ではいけないと痛感した。

しかし、途中で会う地域の方々に、「ごくろうさま」「ありがとう」などの言葉をかけていただいたことは、大変励みとなった。子どもたちも元気良く挨拶を返し、地域の方々とのつながりを感じることができる活動である。

Ⅴ　活動の成果

ちょぼら隊の活動を通して、普段から「ちょぼら」という言葉をよく聞くようになった。学年によっては、掃除当番や給食当番の他に、「ちょぼら班」というものが作られるほどである。それだけ、この「光陽ちょぼら隊」が光陽中学校にもたらした影響は強いと感じる。また、ちょぼらの良いところは、「いつでも・どこでも・だれでも」できるということである。公園清掃やイベントへの参加だけがちょぼらではない。学校で、困っている人に手を貸してあげたり、相手や周りにさりげない心遣いや思いやりを示せたりすること、これこそが真のちょぼらであると考えている。さらにうれしいのが、ちょぼら隊でない生徒も、ちょぼら隊が活躍する姿を見て、黒板消しやプリント配布など進んで手伝いをしてくれるようになったことである。このような心遣いの広がりが、やがて学校や地域を支える大きな力となっていくことだろう。今、本校の生徒は自分のちょっとした行動が地域の役に立っていることを実感し、またやってみようという気持ちになってきているところに、大きな喜びと成果を感じている。

Ⅵ　今後の展望

今後は、今までのつながりを大切に、できる限りの活動を継続していきたいと考えている。光陽中学校に「自ら人のために動きたい」と思う気持ちを芽生えさせてくれた、光陽ちょぼら隊。私は、前任の堀先生から引き継ぎ、たった１年間活動してきただけであるが、非常に楽しく有意義な活動ばかりであった。発足当初本校は、生活の規律や習慣が身についていない生徒や、規範意識の薄い生徒が多い傾向が見られ、生徒指導上の課題を多く抱える時代であったと聞いている。そんな時代に生まれた光陽ちょぼら隊が、今後も地域のために活躍していけることを願っている。そして、この１年、光陽ちょぼら隊の顧問として、子どもたちと一緒に地域に貢献できたことを、誇りに思う。

○お問い合わせ
札幌市立光陽中学校
TEL. 011-763-0066